

分散値の区間推定（母平均値未知）

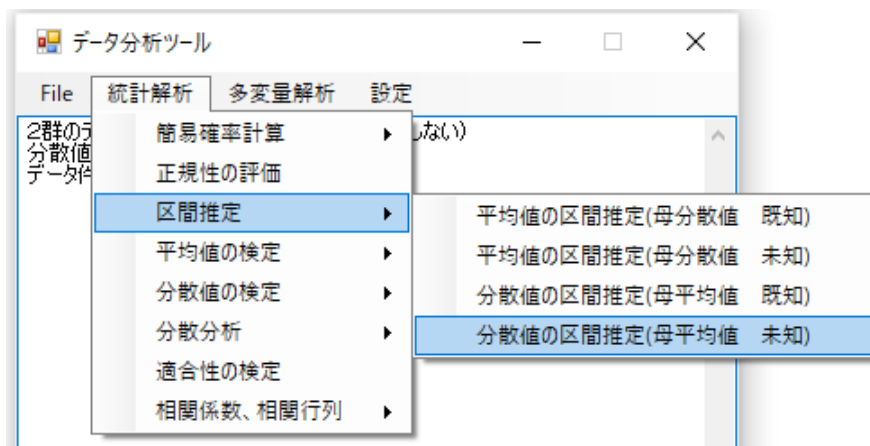
1. 目的

母平均値が未知の場合の1群のデータの分散値の区間推定します。

2. 使用法

(1) メニューの選択

メニューの「統計解析→区間推定→分散値の区間推定（母平均値 未知）」を選択します。



(2) パネルが表示されます。

分散値の区間推定(母平均未知)

データの分散値の区間推定(母平均未知) (χ²乗分布による区間推定)

信頼水準 α (%) : (100-α)% を信頼区間とします

計算結果

自由度 :

標本平均値 : (不偏)分散値 :

信頼区間 : (,)

表データを貼り付け ☐ 先頭行をラベルとして使用 ☐ クリア **直接入力可能**

NO	ID	Value
*		

データ分布1

データ分布2

信頼水準の確率を指示します。指定値を α とすると、 $1-\alpha$ を信頼区間として計算します。通常5%を利用するので、デフォルトで5が指定されている。変更可能。

計算結果が表示される部分

(3) データの入力

パネルの下の部分にデータを入力します。

表データを貼り付け ☐ 先頭行をラベルとして使用 ☐ クリア

NO	ID	Value
*		

データ分布1

データ分布2

データの入力方法は以下の2つあります。

- ① 表計算ソフトのデータをコピーして貼り付ける方法
- ② 直接数値を入力する方法

左の表のデータを右にコピーします。

	ID	値
1	ID-01	33.24
2	ID-02	69.39
3	ID-03	85.56
4	ID-04	44.23
5	ID-05	25.23
6	ID-06	57.55
7	ID-07	79.63
8	ID-08	33.80
9	ID-09	92.43
10	ID-10	62.22



表データを貼り付け <input checked="" type="checkbox"/> 先頭行			
	N0	ID	値
▶	1	ID-01	33.24
	2	ID-02	69.39
	3	ID-03	85.56
	4	ID-04	44.23
	5	ID-05	25.23
	6	ID-06	57.55

(4) 計算条件の指定

信頼水準 α (%) : (100- α)% を信頼区間とします

“信頼水準”には デフォルトで 5 が指定されています。

100- α を信頼区間とします。これは変更できます。

(5) 計算実行

計算実行 ボタンを押すと計算されます。

(6) 計算結果

自由度 :	<input type="text" value="9"/>
標本平均値 :	<input type="text" value="58.328"/> (不偏)分散値 : <input type="text" value="557.9651"/>
信頼区間 :	(<input type="text" value="263.9827"/> , <input type="text" value="1859.616"/>) 分布関数

信頼区間が (263.98~1859.616) と計算されました。

この様子は **分布関数** を選択することで、直観的に判断できます。

次のグラフが表示されます。

